

# 養殖水産動物保健対策推進事業\*1

杉山昭博・蔵下 環

## 1. 事業の目的

魚病の発生及び蔓延を阻止し魚病被害を軽減化させるとともに、食品として安全な養殖魚生産の確保をはかり、もって水産増養殖の健全な発展及び養殖漁家経営の安定に資する。

## 2. 事業の内容

### (1) 魚類防疫対策

#### ア 魚類防疫会議

##### (ア) 防疫推進会議

開催時期	開催場所	主な構成員	主な議題
9年10月	東京	全国各都道府県	防疫事業の進め方
10年3月	東京	全国各都道府県	防疫事業の進め方

##### (イ) 県内防疫対策会議

[クルマエビ]

開催時期	開催場所	主な構成員	主な議題
10年1月	浦添市	クルマエビ養殖業者	種苗導入と疾病について

[海産魚類]

開催時期	開催場所	主な構成員	主な議題
10年3月	台湾	行政関係者	台湾における防疫体制
10年3月	那覇市	業界関係者	沖縄における魚類養殖

#### イ 魚病被害等調査

実施時期	実施地域	調査経営体数	内容
10年1月～3月	県内全域	79	魚病検査、指導、調査

#### ウ 魚類防疫講習会

開催時期	開催場所	対象者(人数)	内容	担当機関
9年10月	名護市	養殖業者	魚類防疫対策について	水産普及所

#### エ 防疫対策定期パトロール

実施期間	実施地域	内容	担当機関
		随時	水産試験場

#### オ 魚病発生時の被害拡大防止対策

##### (ア) 緊急対策の内容

病魚の検査と診断、有効な対策の指示、感染源の特定と根絶、伝染経路の遮断

##### (イ) 実施期間

平成9年4月～平成10年3月

##### (ウ) 担当機関

水産試験場

#### カ 保菌種苗搬入防止対策

対象魚種	対象魚病	検体数	検査方法	検査実施機関
カンパチ	血管内吸虫症	100	顕微鏡観察	水産試験場
カンパチ	アマミクドア症	300	飼育と剖検	水産試験場
カンパチ	イリドウィルス症	100	臓器塗沫標本の観察	水産試験場
マダイ	イリドウィルス症	100	臓器塗沫標本の観察	水産試験場

#### キ 魚病情報ネットワーク化

##### (ア) 魚病関連情報の台帳化

調査対象期間	調査対象地域	調査項目	担当機関
9年4月～10年3月	県下全域	魚種,病名(血清型等含む),時期,大きさ等	水産試験場

\*1：国庫補助事業

(イ) 漁場観測

調査期間	調査対象地域	調査項目	担当機関
9年4月 10年3月	県下全域	水質 (DO、pH、水温等)	水産試験場

(ウ) 漁場環境観測機器の整備内訳

品名	規格	個数
DOメーター一式	Model 58	1
レコーダー	SA-101PA	1
ミニポータブルリーダー	MPR	1
ROMドライブ	CDR-400TX	1

(2) 水産用医薬品対策

ア 医薬品適正使用対策

(ア) 実施結果

開催時期	実施場所	対象者(人数)	内容	担当機関
	随時			水産試験場

イ 医薬品残留総合点検

(1) 公定法による検査

(ア) 検査結果

対象魚種	対象地域	対象医薬品等の名称(成分名)	検査期間	検体数
クルマエビ	沖縄本島 久米島	オキシリン酸	10年2月	20(0)
			合計	20(0)

(イ) 医薬品等の使用状況と残留の関連性について重要と考えられる事項：特になし。

(ウ) 残留分析実施機関名：(財)日本冷凍食品検査協会

(エ) 担当機関：水産試験場

(2) 簡易検査法による検査

(ア) 検査結果

対象魚種	対象地域	対象医薬品等の名称(成分名)	検査期間	検体数
クルマエビ	沖縄本島 久米島	オキシリン酸	10年1~2月	60(0)
			小計	60(0)
クルマエビ	沖縄本島 久米島	塩酸オキシテトラサイクリン	10年1~2月	60(0)
			小計	60(0)
			計	120(0)

(イ) 医薬品等の使用状況と残留の関連性について重要と考えられる事項：特になし。

(ウ) 残留分析実施機関：水産試験場

(エ) 担当機関：水産試験場

(3) 新型伝染性疾病対策事業

ア 県内における新型伝染性疾病発生状況

表1のとおり。

表1 県内における新型伝染性疾病発生状況

魚病名	被害魚種	前年1月から12月の魚病被害状況 (魚病被害率% = 被害量(額) ÷ 生産量(額) × 100)					
		生産量(kg)	被害量(kg)	魚病被害率(%)	生産額(千円)	被害額(千円)	魚病被害率(%)
イリドウイルス感染症	マダイ等	75,193	4,630	6.2	85,889	5,556	6.5
細菌性溶血性黄疸症	ブリ類	6,000	0	0	9,000	0	0
血管内吸虫症	カンパチ類	6,000	0	0	9,000	0	0
ヘテロボツリウム症	トラフグ	0	0	0	0	0	0
PAV感染症	クルマエビ	666,388	-	-	3,688,010	-	-
アマミクドア症	ブリ類	6,000	0	0	6,000	0	0

イ 関係地域対策合同検討会

(ア) 対象魚病：イリドウイルス感染症

(イ) 対象魚種：スズキ目

(ウ) 関係地域対策：西日本地域イリドウイルス感染症対策検討会

合同検討会名 ルス感染症対策検討会

表2のとおり。

表2 西日本地域イリドウイルス感染症対策検討会

開催時期	開催場所	主催県	構成員	主な議題
9年12月	山口県	愛媛県 大分県	京都府、福井県、山口県、佐賀県、熊本県、 宮崎県、鹿児島県、沖縄県、長崎県	・各県の発生状況と対応 ・症例検討 ・全体討議

(ア) 対象魚病：細菌性溶血性黄疸症

(イ) 対象魚種：ブリ類

(ウ) 関係地域対策：西日本地域黄疸症対策

合同検討会名 検討会

表3のとおり。

表3 西日本地域黄疸症対策検討会

開催時期	開催場所	主催県	構成員	主な議題
9年12月	山口県	京都府 宮崎県	福井県、愛媛県、山口県、佐賀県、大分県、 熊本県、鹿児島県、沖縄県、長崎県	・各県の発生状況と対応 ・症例検討 ・全体討議

(ア) 対象魚病：血管内吸虫症

(イ) 対象魚種：カンパチ、ブリ

(ウ) 関係地域対策：血管内吸虫症対策検討

合同検討会名 会

表4のとおり。

表4 血管内吸虫症対策検討会

開催時期	開催場所	主催県	構成員	主な議題
9年12月	山口県	鹿児島県 長崎県	京都府、福井県、愛媛県、山口県、 大分県、熊本県、宮崎県、沖縄県	・各県の発生状況と対応 ・症例検討 ・全体討議

(ア) 対象魚病：ヘテロボツリウム症

(イ) 対象魚種：トラフグ

(ウ) 関係地域対策：ヘテロボツリウム症対

合同検討会名 策検討会

表5のとおり。

表5 ヘテロボツリウム症対策検討会

開催時期	開催場所	主催県	構成員	主な議題
9年12月	山口県	福井県 長崎県	京都府、愛媛県、山口県、大分県、 熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	・各県の発生状況と対応 ・症例検討 ・全体討議

(ア) 対象魚病：PAV感染症

(イ) 対象魚種：クルマエビ

(ウ) 関係地域対策：PAV感染症対策検討

合同検討会名 会

表6のとおり。

表6 PAV感染症対策検討会

開催時期	開催場所	主催県	構成員	主な議題
9年12月	山口県	山口県 熊本県	京都府、福井県、愛媛県、福岡県、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、長崎県	・各県の発生状況と対応 ・症例検討 ・全体討議

(ア) 対象魚病：アマミクドア症

合同検討会名 討会

(イ) 対象魚種：ブリ類

表7のとおり。

(ウ) 関係地域対策：アマミクドア症対策検

表7 アマミクドア症対策検討会

開催時期	開催場所	主催県	構成員	主な議題
9年12月	山口県	沖縄県	京都府、福井県、愛媛県、山口県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、長崎県	・各県の発生状況と対応 ・症例検討 ・全体討議

ウ 病原体侵入防止対策

(ア) 県内対策会議

表8のとおり。

表8 県内対策会議

対象魚病	対象魚種	開催時期	開催場所	主な構成員	主な議題
PAV感染症	クルマエビ	10年1月	浦添市	クルマエビ養殖業者	発生状況（県内外）と対策
アマミクドア症	カンパチ類	10年3月 10年3月	台湾 那覇市	行政関係者 業界関係者	台湾の現状調査 発生状況（県内外）と対策
イリドウイルス感染症	スズキ目	10年3月 10年3月	台湾 那覇市	行政関係者 業界関係者	台湾の現状調査 発生状況（県内外）と対策
細菌性溶血性黄疸症 血管内吸虫症 ヘテロボツリウム症	カンパチ類 カンパチ類 トラフグ	10年3月 10年3月	台湾 那覇市	行政関係者 業界関係者	台湾の現状調査 発生状況（県内外）と対策

(イ) 県内病原体侵入状況調査

表9のとおり。

表9 県内病原体侵入状況調査

対象魚病	対象魚種	対象地域	調査担当機関	病原体検査実施機関
PAV感染症 イリドウイルス感染症 細菌性溶血性黄疸症 血管内吸虫症 ヘテロボツリウム症 アマミクドア症	クルマエビ スズキ目 カンパチ、ブリ カンパチ、ブリ トラフグ カンパチ、ブリ	県下全域	水産試験場	水産試験場

エ 抗病性種苗の確保対策

該当なし。

オ 新型伝染性疾病対策関連備品整備

該当なし。

カ 新型伝染性疾病対策関連施設整備

該当なし。